ISSN 2186 − 3989

19 世紀欧文資料にみられる“一個”について

伊伏　啓子

“Yi ge (一個)”explained in modern occidental materials.

Keiko Ibushi

北　陸　大　学　紀　要
第46号(2019年3月)抜刷

北陸大学紀要
第 46 号（2018）
pp.43～52
〔原著論文〕

19 世紀欧文資料にみられる“一個”について

伊伏 啓子*

“Yi ge (一個)”explained in modern occidental materials.

Keiko Ibushi*

Received November5, 2018
Accepted November13, 2018

Abstract

In modern Chinese grammar, it is clear that "yi-ge" not only expresses 1 of quantity, but also added to an indefinite noun and has a function equivalent to English "a". In this thesis, we used Chinese teaching materials written by Westerners in the 18th and 19th centuries as a reference material and examined how Westerners who have articles in their mother tongue explain "yi-ge" in Chinese. As a result, " yi-ge " has already been specified as a marker of indefinite article in the 19th century writings.

1　はじめに

本文は 19 世紀の欧文資料に見られる中国語の量詞の機能について、拙論 2012 で整理した内容を見直し、中国語の量詞が西洋人によって「助数詞」から「分類詞」と認識される過程において言及されている他の機能について整理する。資料として用いるものは主に 19 世紀に西洋人によって執筆された中国語文法書と教科書である。

"一＋「量詞」"は現代中国語文法では数量の 1 を表すだけでなく、不定の名詞に付加され英語の"a"に相当する働きを持つといわれている。橋本 2014 は「中国語の量詞は日本語の助数詞の用法から見れば現れる必要のない、言い換えれば数量に言及する必要のないところにも用いられる」また、「中国語では量詞が数詞を伴わずに現れることが珍しくない」と述べ以下の例文を上げる。

① 桌子上有一本书。（机の上に本がある。）
② 我先喝杯水，再说。（水を飲んでから話すよ。）[1]

18-19 世紀に西洋人によって作成された中国語教材はラテン語、或いは著者の母語（英語、フランス語、ドイツ語等）を用いて書かれている。ラテン語には冠詞はないが、英語、フランス語、ドイツ語は冠詞を持つ。冠詞を持つ西洋言語を母語とする彼らは、中

*国際コミュニケーション学部　Faculty of International Communication

国語の"一個（个）"に対して当時どのような解釈をしているのだろうか。19 世紀の主な欧文資料 10 冊の内容を整理し、当時の西洋人が把握していた量詞の機能について更に考察を試みる。

2　欧文資料の記述

18−19 世紀に西洋人によって書かれた中国語文法書は西洋言語の品詞分類を利用し文法書を作成している。例えば、Robert Morrison1815（『通用漢言之法』）はその構成から「名詞、 形容詞、 数詞、 代名詞、 動詞、 副詞、 前置詞、 接続詞、 感嘆詞」の 9 つの品詞項目を挙げて中国語を説明していることがわかる。この分類は、当時すでに定着していた英語の 9 品詞分類「冠詞、名詞、代名詞、形容詞、動詞、副詞、形容詞、前置詞、接続詞、感嘆詞」を中国語に当てはめ調整したものであると考えられる。英語母語話者のために効率よく中国語を学べるよう英語文法の枠組みのなかで中国語を説明したのであろう。『通用漢言之法』には冠詞がなく、数詞が加わっている。（他の文法書の構成は表 1 を参照）17、18 世紀の文法書において「量詞」は「数詞」のカテゴリーで説明されていたが、19 世紀に入ると次第に「名詞」のカテゴリーで扱われるようになり、高弟丕 1864『文學書官話』では独立した一つの品詞として扱われるようになった。このようにどのカテゴリーにおいて説明するのかというのは、著者の「量詞」に対する一つの判断を示す。それでは"一個"が西洋人の中国語文法書の中で、どのように取り上げられ説明されているのかを見ていこう。まず、最初に W.Lobscheid1864, *Grammar of the Chinese Language.*を取り上げる。この文法書の構成を見ると「冠詞、名詞、形容詞、代名詞、数詞、動詞、副詞、前置詞、接続詞、助詞、感嘆詞」の 11 品詞の項目があり、ロブシャイドは冠詞を一つの項目として立て中国語を説明していることがわかる。

2.1　W.Lobscheid, *Grammar of the Chinese Language.*1864 の記述

Lobsheid1864 は 1 部口語と 2 部文語の 2 つのパートに分けられている。1 部は「冠詞、名詞（性、数と格）、形容詞（原級、比較級、最高級）、代名詞とそれらの代用語、数詞、動詞、副詞、前置詞、接続詞、助詞、感嘆詞」の 11 品詞の項目があるが、「量詞」に関する内容はこの品詞論の中では扱われていない。この品詞論のすぐ直前に「Classifiers」の項目が立てられている。この一節は量詞表がその大部分を占め、その一つ目に“個”がある。

- “個”は人に用いられる。一個人（人一人。）十個女仔（10 人の少女）
- “个”は“箇”が簡略化されたもので無生物に用いられる。例えば箱やコインなど[2]

ロブシャイドは「量詞」を classifier と称し、英語の herd (in herd of cattle) や sheets (in sheets of paper)のようなものだと説明する。そして 75 個の量詞を名詞との組み合わせを提示しながら列挙している。その量詞リストの一つ目が「個」であり人に用いられると説明する。「一個人」には“one man”の訳が付いておりここで数詞「一」は数量を表している。この量詞リストにみられる例文「一＋量詞＋名詞」のパターンはすべて数量「１」を表していることがその英語訳よりわかる。では、品詞論の冠詞を見ていこう。冠詞の節は、定冠詞と不定冠詞に分けて次のように説明する。

・　定冠詞は指示代名詞、関係代名詞、人称代名詞によって表現される。もっともよく見られるものは以下のものである。

指示代名詞－此、斯　this　　彼 that　　粵語：呢哋 this　箇、個 that
関係代名詞－者　所　　官話：那個 that　這個 this
人称代名詞－其

The tree does not bear fruit.　斯樹不結果　（その木は実がならない。）
The man harbours malicious intentions.　其人懷毒心
（その男は悪意を抱いている）[3]

・　不定冠詞は数字によって表される､更に常にそれぞれの名詞に付加する分類詞（量詞）もそれに続く。これは文学の文体ではあまり見られないが、通俗小説や会話の中では表現される。

I take a room on lease.　我租一間房　（わたしは部屋を貸す。）
I give him a pear.　我俾他一個沙梨　（私は彼に梨をあげる。）
I purchased a ship.　買船一隻，買一隻船　（私は船を買った。）[4]

W.Lobscheid1864 には粵語の例も見られ、上記の例文は書き言葉、話し言葉、粵語の例文が混在している。ここでロブシャイドは、「数字「一」＋量詞」のパターンが不定冠詞となり口語等で用いられると説明する。数量詞として用いられる「一個」と不定冠詞となる「一個」を明確に分けて説明している。

2.2　W.Lobscheid1864 以前の欧文資料

ロブシャイドは中国語文法書の中で冠詞を一つの品詞として項目を設け、定冠詞と不定冠詞を説明した。定冠詞は代名詞を用い、不定冠詞は「一＋量詞」がその働きを持つことを明記している。その他の文法書を見ると「冠詞」を一品詞として取り上げている文法書はない。他の文法書において「一個」はどのように記述されているだろうか。

（１）R.Morrison1815
モリソンは名詞の節の冒頭で量詞を取り上げ「名詞の数、格、性がどのように作られるかを示す前に、「Numerals」と呼ばれる、一般に名詞の前か後ろに置かれる種類の単語に注目することが適切である」と述べる。ここでモリソンは量詞の二つの機能「助数詞」と「類別詞」を説明するだけでなく次の点にも言及している。

・　それらは数を数える時だけでなく、またある一つのものを言及する時にも用いられる。“a ship”は 「一隻船」と表現される。[5]

これは量詞の不定冠詞的用法に触れていると言えるだろう。量詞表に見られる例文には数詞一を伴ったパターンが数多く現れるが英語訳からそれは数を表したものではな

いことがわかる。

一餐飯　i.e.　“A meal.”　（p 38）
建一座石牆　“To build a stone wall.”（p39）
一隻狗　“A dog.”
一隻馬　“A horse.”（p41）
一支筆，一管筆　“A pencil.”（p42）

モリソンの文法書には冠詞の概念は用いられていない。しかし、量詞には個体化機能があり、「一＋量詞」が不定冠詞の働きをしていることを間接的に述べていると考えられる。

（２）Rumesat1822

Remusat1822 は中国語を古語と口語を２つに分けてそれぞれ説明を行っている。量詞に関する内容は、その両方に見られ、数名詞（Des Noms de nombre）の節で取り上げられている。第１部では量詞の「類別詞」と「助数詞」の機能に触れ[6]、第２部で小辞「個」の説明をする。[7]

・ 先（第１部）で述べた量詞とは別に、人にもものにも使う共通の量詞がある。　個：人に　　箇：ものに　　个：人とものに

・ 官話において量詞は数名詞だけに用いられるのではなく、複数を表す語、不限定の数、そして指示形容詞にも表される。量詞「個」が後ろに来る「一」は不定冠詞を形成する。
一個人　Un homme　（誰かある人）
一箇件物　Une chose　（何かある物）
そして、時に「一」を削除することで　「個人」Un homme, quelqu’un（誰か）「個件物」Une chose, quelque chose（何か）

本書はフランス語で書かれた教材である。「一＋個」、そして「個」が不定冠詞の働きをすることを明確に述べている。定冠詞的な用法は以下の例をあげる。

那一个人/那一人/那个人/那人　cet homme-là　（あの人）
这一个件物/这个件物/这一件物/这件物　cette chose,ceci.
（このもの、これ）

（３）Gützlaff1842

本書は名詞の章が「冠詞、格、性、数」の４つの項目に分かれており、「数」の部分に量詞の説明がある。ここでは「助数詞」「類別詞」の機能の他に、量詞が名詞の後ろに付加することにより２字語名詞が作られることにも触れられている。[8]「冠詞」の節では中国語では冠詞はほとんど表記されないと前置きした上で、定冠詞と不定冠詞にあたるものとして、以下の例を挙げる。

・ 話し言葉の中で「這個」「那個」は同じ目的を果たしている。これらの代名詞は this that に翻訳することができる。しかし定冠詞が必要な時にこれらの語が用いられる。本の中で最も頻繁に用いられるのは「其」である。

・　高度な文学作品のなかでは不定冠詞は表現されない。だが、会話スタイルで書かれた本や普通の言い方の中では、頻繁ではないが不定冠詞は表現される。

俾他一個沙梨　gave him a pear.　（彼に梨をあげた。）
看一箇艶色的女　he saw a beauty.（彼は美女を見た。）
有個好意　having a good intention.（良い意思を持っている。）[9]

上記のようにギュツラフは「一個」や「個」が不定冠詞の働きを持つ事を指摘している。

（４）Edkins1857

本書は名詞と形容詞の間に「補助名詞或は数助詞」という項目を設けており、そこで量詞について説明する。エドキンスは「量詞は他の名詞の数量を描写する名詞である」と定義する。そして「中国語の口語の中で非常によく用いられ、度量衡の集合詞として存在するだけでなく、普通名詞に用いられる量詞もある。　一張桌子(a table), 一尾魚(a fish)」[10]と説明する。更に量詞を 5 種類に分け（①普通名詞の量詞、②物質名詞の量詞、③集合量詞、④種類や方法を表す量詞、⑤動詞に用いる量詞)、普通名詞の量詞の節に以下のように説明する。

・　英語で不定冠詞を用いる場面において、中国語は量詞を後ろに伴った「一」を用いる。我看見一個老虎吃羊　I saw a tiger eating a goat.（私は羊を食べているトラを見た）
・　このトラあのトラ、二匹の虎３匹の虎という時には、代名詞や数詞だけでなく量詞もそれに後置される。

エドキンスは、量詞そのものの機能は数量を表現することであり、普通名詞に用いられる量詞は名詞を区別する働きを持つと説明する。そして「数詞（一）＋量詞」のパターンに不定冠詞の働きがあると説明している。

（５）James Summers, 1863, A Hand Book of the Chinese Language

本書では名詞の章の中で量詞が説明されている。英語にある表現“***gust*** of wind”,“***flock*** of sheep”を例に出し、中国語の量詞はこれにあたり、量詞と名詞は同格関係にある。中国語の会話では全ての個体にこのような同格語（量詞）が付加されると説明する。サマーズは名詞と量詞のパターンを複合語であると捉えているようだ。不定冠詞を用いた説明はないが、量詞リストの一つ目「個」には以下の例が見られる。

・　「個、箇 或いは 个」は　最も一般的な同格語（量詞）であり、ほとんど全ての個体と一緒に使われる。　一个人 a man [11]

冠詞の概念を用いた説明はないが「一个人」には “a man” の訳が付いておりこの「一个」は数量を表していないことがわかる。

2.3　W.Lobscheid1864 以降の欧文資料

W.Lobscheid,1864以前の19世紀前半に書かれた文法書を調査したところ、「一個」,「一＋量詞」が数量を表現しない、つまり不定冠詞的用法があることに全ての文法書で触れられていることがわかった。また「一」を除いた「量詞」だけであっても同じ働きがあることをレミュザやギュツラフは述べている。それでは、W.Lobscheid1864以降の資料を見ていこう。

（６）Thomas Francis Wade, 1867, 『語言自邇集』

『語言自邇集』には「言語例略」という中国語文法について書かれた文章がある。「言語例略」では 13 章にわけて中国語文法について説明がなされており、それには英語版と中国語版の両方がある。第３章が「量詞」に関する内容であるが、英語版では「The Chinese Numerative Noun」と題目が付けられている。「量詞」を「Numeratives」と称しているが、本文の説明では「attendant nouns」のことばが多用され、中国語版ではこれを「陪伴的字」と訳している。ここでは量詞の「助数詞」と「類別詞」としての機能が細かく説明されている。「言語例略」の第２章は「名詞と冠詞」という題目でここに冠詞の概念を用いた説明がある

・ 英語の中で名詞が現れる時は、書き言葉であるか話し言葉であるかに関わらず、いつも他の語が前に付加されてそれが既に決まった命題であるのか否かを表現する。中国語ではこのような働きを明確に定義する語はない。しかし、必要に応じて、定（既知）と不定（未知）を区別する方法がある。「一個人來，有一個人來（誰かが来る)」というのを聞くと、我々はその言われている人がこれまで言及されたことがない人で、話し手もその人が誰なのかはっきりわからない。しかし「那個人來了（あの人が来る)」と聞くと、その人は先ほど話に出たあの人であるということがわかる。[12]

ここでウェードは、中国語では「一個、有一個」が不定冠詞の働きをし、「那個」が定冠詞の働きをする。また定冠詞の働きを持つ語として「這」「其」も挙げる。定と不定を未知と既知で説明していることが他の文法書では見られない大きな特徴である。

（７）Crawford1869. 高弟丕、張儒珍, 1869, 《文學書官話》

本書は中国語を 15 の品詞分類に基づいて説明するが、ここで「量詞」は一つの品詞として分類され「分品言」と称される。「分品言は名詞の種類を分類する」ものであると説明され次のような例文が挙げられている。

一個人騎一匹馬上一座山。　「個」は人の量詞である。[13]

本書は中国語のみで書かれているため例文の英語訳は無い。クロフォードは量詞の分類詞としての機能を明確に述べているが、その他の機能について特に言及されていない。冠詞の概念を用いた説明も見られない。

（８）J.S.Mcilvaine, 1880, Grammatical Studies in the Colloquial Language of Northern China

本書は第１章「単語とその分類法」の中で、中国語は動詞、名詞、そして小辞の３つの大きなグループに分けられ、本書の内容もその３つの大きな分類に従い、1.実詞（名詞、代名詞、指示詞、数詞、所格名詞)、2.述詞（形容詞、動詞、副詞)、3.小辞

（前置詞、接続詞、間投詞、終助詞）のグループに分けたと説明する。さて、「量詞」に関する内容は 1 の実詞のグループの中で取り上げられており、量詞は「補助的な名詞」と称されている。この節で量詞の「助数詞」と「類別詞」としての機能が説明されるが、量詞の個体化機能も明確に述べている。その前にある chapter3 は名詞の数について説明するが、ここに冠詞の概念を用いた説明がある。

・　英語の場合のように中国語の普通名詞は、むしろその個性を際立たせる物の性質を示す。したがって、単数および複数は、しばしば特別に示さなければならない。単数で、もし意味が不確定ならば、数字「一」或いは適当な量詞を用いる。ただし通常は二つを繋げたもので表現される。これは英語の a や an に相当する。意味が確定しているならば、指示形容詞を用いる。
　一個人 a man　　那個人 that man[14]

Mcilvaine は「一個」に不定冠詞の機能があることを述べている。また、中国語の名詞が英語と同じようにそれだけでは明確な個体を表現できず、量詞が付加することによって個体として存在することになると、量詞の個体化機能を明確に述べていると言えるだろう。

（9）Gablentz1881
　本書はドイツ語で書かれた文法書である。口語と文語の 2 章に分かれており口語について書かれた章の数詞の後に量詞の説明がある。

・　基数、それと同義の形容詞、及び指示代名詞はたいていそれだけで立つことはなく、より一般的な意味の名詞、- Numerativum［量詞］がそれらに続くのが常である。

　そして、量詞「个」について次のように説明する。

・　一般的な「量詞」は「个」である。また、人の場合は「個」物の場合は「箇」と書かれる。これらの語は不定冠詞 <ein> の代理も務める。[15]

ガブレンツも量詞「個」に不定冠詞の働きがあることを指摘している。

19 世紀後半の資料においても、同じように「一＋量詞」また「量詞（個）」が不定冠詞的な働きをすることが明確に書かれている。ただ、ウェードが「定・不定」を「既知・未知」で説明するのは他に例がない。

3　冠詞について（L.Murry1795）

　最後に、英語の冠詞について L.Murry1795 *English Grammar Adapted to the Different Classes of Learners.*の記述を見てみよう。これは 18 世紀末に出版され、19 世紀学校文法として世界で広く読まれた英語文法書である。

・　冠詞とは名詞の前に付加し、その名詞を指し示し、その意味がどの程度広がって

いるのかを示すための単語である。

- A 或いは An は不定冠詞と呼ばれる。漠然とある一つのものを指し示す。不確定である。たとえば、give me a book.(私に本をください)この本はすなわちどんな本でも良い。
- The は定冠詞と呼ばれる。なぜならそれは特定のものを確定するからである。give me the book. (私にその本をください)言及された本を意味する。
- 冠詞のない名詞は最も広い意味でとられる。knowledge is proper for man. (知識は人類に受け入れられる。)
- 不定冠詞は、単数のみの名詞に結合することができ、定冠詞は複数形の名詞にも結合することができる。[16]

L.Murry1795 では英語の 2 種類の冠詞、定冠詞と不定冠詞を「確定した明確なもの」と「曖昧な不特定なもの」を指し示す機能があると説明する。この「定と不定」の概念は 19 世紀に書かれた西洋人による中国語文法書に反映されていると言えるだろう。

4　小結

現代中国語において不定冠詞的な用法を持つ「一＋量詞」が 19 世紀の西洋人が作成した中国語文法書の中でどのように説明されているか調査したところ、ほぼすべての文法書で冠詞の概念が用いられ、「一＋量詞」は英語の“a”に相当し、不定冠詞的な用法を持つと説明されていることがわかった。さらに「一」が省かれた「量詞」だけであっても不定冠詞的な機能があることが述べられている。またそれらは定冠詞と対比して説明されていた。（表 2 参照）

英語の不定冠詞“a”は、その起源が数詞“one”にあるといわれる。“one”から“a”へ変化し不定冠詞が形作られたように、中国語の数詞「一」が不定冠詞になったと想像することは西洋人にとっては難しいことではないだろう。しかし、「量詞」のみで不定冠詞になるという機能については、彼らはどう理解したのであろうか。そこで、Morrison1815 や Mcilvaine1880 で述べられている量詞の個体化機能に注目したい。18−19 世紀の西洋人は量詞がもつ「助数詞」や「類別詞」の機能を明確に把握していくが、その中で Mcilvaine1880 は中国語の名詞の特徴を捉え以下のように述べる。

- 中国語の一般名詞はその個体をはっきりと指し示すことはなく、通常そのものの性質を示します。そのため、個々の存在を示すことができる種類の語を用いなくてはなくてはなりません。[17]

この「個々の存在を示す語」が量詞である。Mcilvaine は量詞の個体化機能を明確に述べているといえるだろう。量詞そのものが持つ個体化機能が不定冠詞的用法をもたらすのである。中国語の量詞の機能は 19 世紀の西洋人によって「助数詞」、「類別詞」そして「不定冠詞的用法」まで把握されていたことがわかった。今後は 18 世紀の西洋人によって書かれた中国語文法書やラテン語で書かれた中国語文法書まで範囲を広げ、量詞の個体化機能がどこまで把握されているか、そしてその判断の基準はどこにあるのか調査を続けることにする。

表 1．19C 西洋人による中国語文法書に見られる品詞分類

書名	分類
Joshua Marshmann1814《中國言法》	名詞 形容詞 代名詞 動詞 虚詞
Robert Morrison1815《通用漢言之法》	名詞 形容詞 数詞 代名詞 動詞 副詞 前置詞 接続詞 感嘆詞
Abel Remusat 1822《漢文啓蒙》	名詞 形容詞 数詞 代名詞 動詞 前置詞 接続詞 感嘆詞 （助詞）
Philo-Sinensis(Gützlaff)1842 *Notices on Chinese Grammar*	名詞 形容詞 代名詞 数詞 動詞 副詞 前置詞 接続詞 虚詞と感嘆詞
Joseph Edkins, 1857, *Mandarin Dialect*	名詞 補助名詞或は数助詞 形容詞 代名詞 動詞 前置詞 副詞 連詞 助詞と感嘆詞
James Summers, 1863, *A Hand Book of the Chinese Language*	名詞 形容詞 数詞 代詞 動詞 副詞 前置詞 接続詞 感嘆詞と助詞
W.Lobscheid, 1864, *Grammar of the Chinese Language*	冠詞 名詞 形容詞 代名詞 数詞 動詞 副詞 前置詞 接続詞 助詞 感嘆詞
Thomas Francis Wade, 1867, 《語言自邇集》	名詞 中国語の数量名詞 形容詞 代名詞 動詞 副詞 前置詞 接続詞 感嘆詞
Crawford1869. 高弟丕、張儒珍, 《文學書官話》	名頭 替名 指名 形容言 数目言 分品言 加重言 靠托言 帮助言 随從言 折服言 接連言 示處言 問語言 語助言
J.S.Mcilvaine, 1880, *Grammatical Studies in the Colloquial Language of Northern China*	實詞（名詞 代詞 指示詞 数詞 方位詞） 述詞（形容詞 動詞 副詞） 助詞（前置詞 接続詞 感嘆詞 文末助詞）

＊二重線の上に位置する文法書には品詞分類に関する記述はなく、文法書の章立てから筆者が分類したものである。二重線の下に位置する二つの文法書には著者による品詞分類に関する説明がある。それぞれの品詞は文法書に出てきた順に記した。

表 2.

定冠詞	不定冠詞
這個 那個 其	一個，個 一＋量詞，（一＋）量詞

[付記：本稿は平成 30 年度科学研究費補助金（基盤 C)「近代欧文資料から見る中国語の品詞分類と文法論」（代表：伊伏啓子）による研究成果の一部である]

参考文献

橋本永貢子『中国語量詞の機能と意味—文法化の観点から』白帝社，2014.
伊伏啓子「近代西洋人による中国語文法の研究—「量詞」について」『アジア文化交流研究』2（2007）.
何群雄『中国語文法事始め』三元社，2000.
吕叔湘『汉语语法论文集』,『吕叔湘全集』(2), 2002.

西山美智江「Martino Martini（1614−1661）の『Grammatica Sinina』（1653）」『関西大学中国文學会紀要』29 （2008）.
大河内康憲『中国語の諸相』白帝社,1997.
王力『汉语语法史』,［1959］1983.
伊伏啓子「早期西方人對漢語「量詞」的認識及其轉變 —從 Numeral 到 Classifier」,『靜宜語言論叢』5（2),（2012）.
赵元任著，吕叔湘译『汉语口语语法』,［1979］2005.

Crawford, T.P 高弟丕、張儒珍, *Mandarin Grammar*《文學書官話》1869.
Edkins, Joseph *A Grammar of the Chinese Colloquial Language, commonly called the Mandarin dialect.* 1857.
Gablentz, Royale *Chinesische Grammatik*. 1881.
J.S.Mcilvaine, *Grammatical Studies in the Colloquial Language of Northern China*.1880.
Lobscheid, William *Grammar of the Chinese Language*.1864,
Morrison, Robert *Grammar of the Chinese Language*.《通用漢言之法》1815.
Philo-Sinensis[Karl Friedrich August Gützlaff] *Notices on Chinese Grammar.* 1842.
Rémusat, Abel *Élémens de la grammaire chinois.*《漢文啓蒙》1822.
Summers, James *A Hand Book of the Chinese Language.* 1863.
Wade,Thomas Francis《語言自邇集》1867.

注

[1] 橋本 2014.pp.1-2.
[2] W.Lobscheid1867.Part1.pp.6-7
[3] Ibid.pp.17-18
[4] Ibid.p.18
[5] Morrison1815.p.37 “But they occur not only when reckoning, but also when mentioning one of a thing,”
[6] Rumesat1822, p.50: Presque toujours, on ajoute aux noms des nombres une particule qui ne change rien au sens, quoiqu’elle varie suivant la nature des objets nombés. On nomme ces sortes de particles, numerals.（ほとんど常に、数えられる対象［名詞］の性質によって変化し、意味上は何の変化も表わさない小辞を数詞に付け加える。人々はそれを Numerals と呼ぶ。）
[7] Rumesat1822, pp.115-116
[8] Gützlaff1842, pp.36-37
[9] Ibid.pp.25-26
[10] Edkins1857, p.120
[11] Summers1863, p.47
[12] Wade1867.pp.284-283.
[13] Crawford1869.p.19a
[14] J.S.Mcilvaine,1880 p.9
[15] Gablentz1883,p.92
[16] L.Murry1795,pp.22-23
[17] J.S.Mcilvaine,1880 p.8 : common nouns in Chinese ordinarily indicate the nature of an object, rather than signalize its individuality, it follows that there must be a class of words by the use of which individual subsistence can be indicated